



私はとても珍しい母です。

というのも、この国ではそうあることではない〇5歳という若さで子供を生んだのです。

私は現在〇8歳。そして一人息子のハルキは今年で〇4歳の誕生日を迎えます。

まるで私たちは姉弟のような年の差の少ない母子なのです。

私とハルキは友人のように仲が良く、ハルキももう随分と大きくなったのですがいまだに一緒に外出することは頻繁にあります。しかし街で歩いても、カップルや姉弟と間違えられることこそあっても親子と認識されることはまずありません。

旦那は私がハルキを生んだ時既に33歳とこれもまた珍しいくらい私たちは年が離れている夫婦で、旦那は現在もう〇0台後半にさしかかっている中年オヤジです。

最近専ら仕事ばかりで毎晩疲れた顔をして帰ってくる旦那。夜の営みも限りなく少なく、欲求不満が溜まっている毎日です。

そして息子のハルキのことなのですが……。

最近、私は思わず一人で大きな叫び声をあげてしまいそうになるくらい驚いたことがあります。

この間の夕方、ハルキが数枚の写真を眺めていましたので私が何の写真なのか尋ねると、

「これ？友人たちと一緒に撮った写真だよ」

と言って、先日近くの温泉街にあるレジャープールへ行って仲間たちと一緒に撮った写真を見せてくれました。

写真は、仲間たちとおどけたポーズをとったりしながら楽しそうに笑っている写真がほとんどでした。ハルキや友人の子たち各々の顔はしっかりと確認できましたが、間近で撮った写真は少なかったと思います。しかしその中の一枚に、珍しくハルキがカメラの真ん前、アップで映っている写真がありました。

そして……。

私はその写真を見て思わず声を上げてしまいそうなくらいびっくりしてしまったのです！

私が見たのは決して未確認生物でも幽霊でもありません。

そこにはまぎれもない“現実”が写っていました。

遅しく・・・あまりに遅しく成長したハルキのおチンチンです。

私はあまりの衝撃に自分の目を疑って、思わず手で目を擦った後にもう一度目を凝らして見入ってしまいました。

見間違いなんかじゃなく・・・そこには、まさしく現実のハルキの成長した姿がありました。

ほんの少し斜め右を向いて、ハルキはおちゃらけたポーズでピースしています。いつもと同じ、明るくて陽気で素直なハルキの顔です。

だけど、私の目はハルキの下半身に釘付けでした。カメラに最も近く、はっきり過ぎるくらいに映っているハルキの股間の部分。

ブリーフ型の紺色の水着は、大きなおちんちんで卑猥にもっこりしています。ピタッと股間に密着したビキニに近い水着なので、その太さや長さ、形までくつきりと股間に浮かび上がっています。

“どんなに大きいの??”

と目を疑いたくなるくらいに本当に大きくて・・・。

私は我が息子と分かりつつも、その光景があまりに卑猥なものですから思わず私は顔を赤らめ、目を手で覆い隠してしまいました。

卑猥・・・いやらしい・・・だけど言い方を変えれば私の女としての本能をくすぐるたまらなくエッチなモノ。

息子が生まれ持ってきたおちんちんが、時を経てこれだけの大きさに成長したのです。

そして、口にするのも恥ずかしい現実ですが、私は息子のチンポで興奮してしまっていました。

そしてそれ以来もうどうかしてしまいそうで・・・。

私自身、若い頃からプロポーションを褒められてきました。

実を言うと、あまりメジャーな雑誌ではありませんが一時期だけグラビアモデルの仕事をしたこともあるくらいです。

当時の健康的でピチピチな若い体からすれば、それは分からない部分で“おばさん化”しているのかもしれませんが。だけど今だって、少なくとも鏡の前ではその衰えなどは分かりません。

胸だったくびれだっけ・・・若い子に負けてるとは思いません。

ちゃんと自己管理し、健康維持し、若い頃から自慢だったプロポーションだ

けには今でも揺るぎない自信を持っているのです。

きっとそんな私の遺伝なのでしょう、ハルキも年の割に背が高く、肩幅も広くて、男らしい体になってきていたのには気付いていました。

だけどあんな立派な巨根を持っているなんて・・・。

ダブダブのデニムパンツの上からでも、ブカブカの制服のズボンの上からでも分からなかった、大切な愛息子の股間に潜んでいた大きな“モノ”。

私は気になって気になって、次第に夜も眠れないくらいになってしまいました・・・。

繰り返しになりますが、旦那との夜の生活はご無沙汰です。

相性やセックスの頻度云々の前に、もう旦那は性欲が薄れてきているのか私を求めようとしません。ほとんどセックスレスとも言える状態です。

こんなに性に飢えた若い妻がいるのにどうして??

だけど旦那の年齢を考えると文句を言うことも出来ません。

そして、ずっと続いていたそんな私の欲求不満の行く末は・・・“ハルキ”。

その衝撃的な写真を見てしまった日から、気が付けば私の肉欲のベクトルはハルキばかりに注がれるようになってしまいました。

そして悶々と募る一方の淫欲の中、私の思考と正常な判断力は鈍り、ついに後先も考えない行動に出てしまったのです。

それは、今思えば欲望だけが突っ走ってしまった結果とも言えるものでした。

旦那が泊りがけの出張で自宅を出ていた夜の事です。

夏場の割には少しひんやりとした空気の夜でした。

ハルキはその時、学校から帰ってしばらく二階の自室で過ごしていたようでしたが、7時を過ぎたあたりにハルキが階段を下りてきて浴室に向かった足音が、キッチンで料理をしていた私の耳に届きました。

バタンッ！

脱衣所のドアが閉まる音・・・。

私はその音を確かにこの耳で聞きとめた後、ずっと抑えていた思い、本当は心の中だけに留めておくべき罪深い思いを行動に移してしまったのです。

“こんなこと・・・母親である私がしているなんて！！”

一瞬、自分のしていることが客観的に見えてどうしようもない罪深さが脳裏をよぎります。

だけど私は自分を止めることができませんでした。

そして、気がつけば私はハルキが入浴している浴室の隣の更衣室で服を脱ぎ終えていました。

浴室にはシャワーの音。

確かに・・・確かに実の息子が入浴中です。

私は浴室のドアに手をかけ、ひとおもいに開きました。

カチャ・・・スーーーーーッ・・・。

「んっ!？」

私が入った瞬間、ハルキはシャワーを出しっぱなしにして頭を洗っていました。白い泡が、ハルキの短い髪を覆っていました。

ドアを開ける小さな音はシャワーの音でかき消されました。さらにハルキは目をつむっていましたので、私が更衣室で衣服を脱いでいたことにも、そしてまだ入って来たことにも気付いていませんでした。

そんなハルキに私はいつもと何ら変わらない口調で言ってあげました。

「頭洗う時くらいシャワー止めなきゃダメでしょ、ハルキ・・・」

そう、いつもと同じ・・・。

だけど何よりも大きすぎる違いがあります。

私は全裸。そしてハルキも全裸。そしてここは浴室であること。

母子二人が生まれたままの姿になって同じ空間にいる、それが絶対的な違いです。

「ちょっ!!? ちょっとママ!!! 何してるんだよ?」

声をかけた私に気付いたハルキは慌てて水が噴き出すシャワーヘッドを手に取り、目元にかかった泡を洗い流した後、私の姿を見て驚きの声を上げました。

「久しぶりねハルキ、こうして一緒にお風呂入るのも・・・」

「なっ!?!? ママッ!?!?!」

動揺するハルキに対し、私は胸もそして下半身の大切な部分もタオルなどで隠すことはしません。

ただそのままの、剥き出しの裸をさらけ出し、ハルキを素直な気持ちで見つめます。



すると・・・・・・・・

ビーンッ！！

まるで・・・・・・・・“バネ”。

まだ少しも“へたり”が入っていない真っ新のバネのように、凄い勢いでお腹にへばりついてビクビクしているハルキのチンポが顔を出しました。

とっても卑猥だけど、とっても可愛い。愛する息子の立派な生殖器です。

堪らない・・・・・・・・。

女の本能が疼きます。

こんなエッチなズル剥けチンポを今すぐ口に含みたい・・・・・・・・。

———体験版はここまでです———

——もし気に入っていただけましたら商品をご購入ください——